

運動療法を継続できる「2型糖尿病患者の運動療法と 見え方分類ツール」の作成

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: 金沢大学
URL	http://hdl.handle.net/2297/37217

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



学 位 論 文 要 旨

学位請求論文題名

運動療法を継続できる「2 型糖尿病患者の運動療法とらえ方分類ツール」の作成
Preparation of tool to classify type 2 diabetes patients by significance accorded to therapeutic
exercise, to facilitate therapeutic exercise continuation

著者名・雑誌名

山崎 松美, 稲垣 美智子

日本看護研究学会雑誌 Vol. 36 No. 4. 2013 掲載予定

金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻

看護科学	領域
慢性・創傷看護技術学	分野
学籍番号	0727022027
氏 名	山 崎 松 美
主任指導教員名	稲 垣 美 智 子
指導教員名	須 釜 淳 子
指導教員名	中 谷 壽 男

【目的】

糖尿病患者にとって運動療法は基礎治療であり、継続の効果は明らかである。しかし、糖尿病患者の運動療法実施率・継続率は40～60%と低く、運動療法が継続できる新たな教育方法の開発が必要である。そこで修士課程では、「2型糖尿病患者が運動療法を継続する仕組み」を質的研究により明らかにした。その結果、2型糖尿病患者が運動療法の継続にいたるには、「運動療法のとらえ方」が重要であり、とらえ方を軸に発展するプロセスをたどっていること、この発展の段階別に参加者を5つのパターンに分類可能であり、そのうち3つのパターン（①安定継続状態、②準安定継続状態、③割り切り不十分状態）が運動行動を継続できること、さらに、「運動療法は運動ではない」という概念の修得が、安定継続状態には重要であると示唆した。本研究は、この結果をもとに、運動療法のとらえ方分類を一般に広く用いることができることを目指し、患者に質問項目で示す、運動療法を継続できる「2型糖尿病患者の運動療法とらえ方分類ツール」を作成することを目的とした。

【方法】

1) 原案の作成

「2型糖尿病患者が運動療法を継続する仕組み」の5つのカテゴリーと、パターンの特徴を強める生データより、合計32項目の質問項目を作成した。内容妥当性を検討した結果、1項目が削除され31項目の原案が作成された

2) 項目の選定と信頼性の検討；質問紙法と面接法を用いたデータ収集

①対象者：外来に通院する2型糖尿病患者で、現在運動または運動療法を実施している、あるいは一時的に運動療法を中断している人296名（男性193名、女性103名、平均年齢62.6歳）である。調査期間は2008年12月～2011年8月である。

②データ収集方法：質問紙調査では、運動療法のとらえ方分類ツール原案を、6件法の回答形式で実施した。面接調査は、対象者のパターンを判定するために、質問紙調査が終了した後に個別に行った。

③分析方法：面接により判定したパターンを外部基準とし、基準関連的方法により弁別力の優れた項目を選定した。さらに、Cronbach's α 係数とItem-Total相関を確認し、内的整合性を悪くする項目は検討し、削除した。

3) 構成概念妥当性の検討

面接によるパターン別に、最終的に残った項目の得点をカテゴリーごとに比較し、得点差と質的研究で描かれた構造図との一致を検討した。さらに、面接でのパターン判定との判別分析を行い、判別の中率を求めた。

5) 再テストによる再現性の検討

72名に再調査の依頼をし、1回目の得点と再テストの得点での級内相関係数を求めた。

【結果】

- 1) 外部基準：面接によるパターン判定の結果、パターン①82名、パターン②48名、パターン③106名であった。
- 2) 項目の選定と信頼性の検討：外部基準のパターン①と②と③の3群間で、質問紙の各項目の点数をKruskal-Wallis検定を用いて比較し、有意水準5%未満で有意差のみられなかった項目を削除した結果、《糖尿病をもつ体へのいたわり》3項目、《運動療法は運動ではない》4項目、《運動療法への割り切り》5項目、《運動療法の影響を自分の体で納得》5項目、《療養生活の振り返りと解釈》5項目、パターンの特徴2項目の合計24項目が採用された。Item-Total相関を確認しながら、Cronbach's α 係数を求めたところ、最終的に21項目が採択され、Cronbach's α 係数は各カテゴリーでは0.54～0.76、全体では0.88とある程度の内的整合性が確認できた
- 3) 構成概念妥当性：パターン間のカテゴリー得点比較では、《運動療法は運動ではない》のみ3群間全てに差がみられたが、その他はパターン②と③の間に有意な差はみられなかった。しかし、質的研究で描かれた構造図とほぼ一致していた。また、面接でのパターン①②③による3群の判別分析を行ったところ、判別の中率は55.8%であった。そこで、パターン③、それ以外（パターン①、パターン②、パターン①～②）の2群で判別分析を行ったところ、判別の中率は68.0%となり、パターン③の判別にある程度の有効性が示された。
- 4) 再現性：再調査は58名から回答が得られ（回収率80.6%）、再テスト法による信頼性係数は、各カテゴリーでは $r=0.52\sim0.79$ 、全体では $r=0.785$ と概ねの再現性が確認された

【考察】

1. 本ツールは、基盤となった質的研究を反映した信頼性と妥当性のあるツールと言える。ただし、3群の判別には十分とは言えない課題が残された。
2. パターン③の見極めが可能な本ツールは、糖尿病患者への安定した運動療法継続を支援していく上で、重要な役割を果たすと考えられる。
3. 臨床看護現場では、ツール得点は参考値としながら、療養相談の中で、この質問項目に対する反応や感情、経験などの語りを聞き取り、運動行動の本質を見極める、面接ツールとして使用するのが望ましいと考える。

【結論】

質的研究で明らかとなった、2型糖尿病患者の運動療法のとらえ方分類を、一般的に用いることが出来るためのツールを作成した結果、5カテゴリー21項目が確定された。また、信頼性として内的整合性と再現性が確認され、構成概念妥当性が検証された。よって「2型糖尿病患者が運動療法を継続する仕組み」は一般化でき、本ツールは、2型糖尿病患者の運動療法のとらえ方パターンを把握することが可能であることが証明された。